

鷺巣敦哉氏著作目録抄（八訂稿）

—日本統治下台湾警察史の一齣—

（令和 4（2022）年 7 月 28 日（木）現在）

（HP 初出） 初 稿：平成 19（2007）年 8 月 15 日作成

改訂稿：平成 21（2009）年 1 月 17 日作成

再訂稿：平成 23（2011）年 9 月 4 日（日）作成

二訂稿：平成 23（2011）年 11 月 23 日（水）作成

三訂稿：平成 23（2011）年 12 月 18 日（日）作成

四訂稿：平成 26（2014）年 9 月 7 日（日）作成

五訂稿：平成 26（2014）年 11 月 27 日（木）作成

六訂稿：平成 27（2015）年 8 月 3 日（月）作成

七訂稿：令和 4（2022）年 4 月 1 日（金）作成

八訂稿：令和 4（2022）年 7 月 28 日（木）作成

・本稿は、『台湾総督府警察沿革誌』の編者である鷺巣敦哉氏（1896～1942）の著作の一部を紹介するものである。同氏の著作の全体については、中島利郎教授に「鷺巣敦哉著作目録」『鷺巣敦哉著作集』V（緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）があり、その後、『鷺巣敦哉とその時代（続編（写真・資料篇））—日本統治下台湾警察史雑纂 第五輯—』（私刊、平成 15 年 11 月 1 日刊）28 頁以下で一部補訂したが、ここでは、単行書のみを収録した。

（平成 19 年 8 月 15 日初稿作成）

・一部補正するとともに、誤植等を訂正した。なお、鷺巣敦哉氏の著作については、本 HP 掲載の下記諸稿をも参照。

・「鷺巣敦哉氏と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>〉

・「『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）概要—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉

・「『鷺巣敦哉著作集』V（「雑誌所収著作」：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）、同別巻（「警察試験叢書・雑誌所収著作補遺・索引」：同、平成 14 年 1 月 31 日刊）及び『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（同、平成 26 年 7 月 31 日刊）所収論稿一覧—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukiko.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏著『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（台湾警察協会、昭和 18 年 9 月 20 日刊）・雑誌『台湾地方行政』比較対照表（三訂稿）—『鷺巣敦哉著作集』

IV (『台湾統治回顧談〈台湾の領有と民心の変化〉』：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊)
参考資料― 一日本統治下台湾警察史の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukaiko.pdf>〉

・「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題及解答集』(警察試験叢書第四編、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊)の再発見 一日本統治下台湾警察語学教養の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』(昭和 19 年 1 月刊)一瞥 一最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希観書二題― 一日本統治下台湾警察史の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>〉

・「村上収氏の御逝去を悼みて―『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況 中巻 一台湾社会運動史―』編纂過程の究明によせて― 一日本統治下台湾警察史の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/murakami001.pdf>〉

・「木村貞次郎氏台湾語関係著作目録抄―日本統治下台湾警察語学教養の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kimura001.pdf>〉

(平成 21 年 1 月 17 日改訂稿作成、令和 4 (2022) 年 7 月 28 日一部補正)

・一部補正するとともに、誤植等を訂正した。特に、『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き』(自己出版、昭和 9 年 7 月 31 日初版刊、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊)再発見の件を追加し、『台湾行政法講話 試験問題と其解答』(未発見)の件を一部補正した。

(平成 23 年 9 月 4 日再訂稿作成)

・『警察試験叢書第三編・警察算術問題解法の秘訣』(台北一中教諭四宮勤一氏(1907~1992)との共著、自己出版、昭和 10 年 2 月 15 日刊)中の「四宮勤一氏」(四ノ宮勤一氏)のことが判明したので追加するとともに、その他一部補正した。

(平成 23 年 11 月 23 日二訂稿作成)

・四ノ宮勤一氏のことについて更に補正した。

(平成 23 年 12 月 28 日三訂稿作成)

・『鷺巣敦哉著作集 補遺』(緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊)刊行に伴い、一部補正した。

(平成 26 年 9 月 7 日四訂稿作成)

・台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」(日文舊籍)関係情報を追加した。

(平成 26 年 11 月 27 日五訂稿作成)

・「(参考)台湾 HP 資料に見たる鷺巣敦哉氏」として、下記の件を追加した。

國立臺灣圖書館 〈<http://www.ntl.edu.tw/mp.asp?mp=5>〉

⇒《臺灣學通訊》第 88 期 / 警務 (2015.7.14)

〈<http://www.ntl.edu.tw/ct.asp?xItem=56580&ctNode=457&mp=5>〉

⇒「臺灣警察界第一寫手 鷺巣敦哉」

文・圖片提供／鍾淑敏（中央研究院臺灣史研究所副研究員兼副所長）

〈<http://www.ntl.edu.tw/public/Attachment/57141435512.pdf>〉

（平成 27 年 8 月 3 日六訂稿作成）

・レイアウトを全面変更するとともに、一部補正、追加した上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）に収録した。

（令和 4（2022）年 4 月 1 日七訂稿作成）

・一部補正、追加した。

（令和 4（2022）年 7 月 28 日（木）八訂稿作成）

〔目 次〕

1 『台湾総督府警察沿革誌』の収録内容	4
2 鷺巣敦哉氏の個人著作	5
3 『鷺巣敦哉著作集』の収録内容	8
（参考）台湾 HP 資料に見たる鷺巣敦哉氏その他	9

1 『台湾総督府警察沿革誌』の収録内容

『台湾総督府警察沿革誌』（以下『沿革誌』という。）は、昭和 8（1933）年 12 月より昭和 17（1942）年 3 月にかけて、台湾総督府（以下「督府」という。）警務局編として、次のように刊行された。

- ①『第一編警察機関の構成』（昭和 8 年 12 月 15 日刊）（以下『沿革誌』Ⅰ。）
- ②『第二編領台以後の治安状況（上巻）』（昭和 13 年 3 月 31 日刊）（以下『沿革誌』Ⅱ。）
緑蔭書房復刻版を見れば、「部外秘密」の別刷が挿入されているが、他の諸編については不明。
- ③『第二編領台以後の治安状況（中巻） 台湾社会運動史』（昭和 14 年 7 月 28 日刊）（以下『沿革誌』Ⅲ。）
緑蔭書房復刻版を見ると、秘印が押され、各冊に通し番号が付される。
- ④『第二編領台以後の治安状況（下巻） 司法警察及犯罪即決の変遷史 刑事警察制度の变革』（昭和 17 年 3 月 29 日刊）（以下『沿革誌』Ⅳ。）
（鷺巣氏は昭和 17（1942）年 3 月 29 日台北市で逝去されておられることから、『沿革誌』の掉尾を飾る本書の刊行月日は、それと何らかの関係があるのか。）
- ⑤『第三編警務事績編』（昭和 9 年 12 月 17 日刊）（以下『沿革誌』Ⅴ。）
- ⑥別編『詔勅・令旨・諭告・訓達類纂』（昭和 16 年 3 月 31 日刊）（以下『沿革誌』別篇。）

これは、領台当初より昭和 14（1939）年までの政府公文書、当局訓示を収録したものであるが、原本そのものは未見のため、正式表題不詳。台北・成文出版社復刻版『詔勅・令旨・諭告・訓達類纂』（1）、（2）（1999 年 6 月刊）は、原本内表紙、奥付けを欠く。ちなみに、許世楷氏（1934～、2004.7～2008.6 亜東関係協会台北駐日経済文化代表処代表）は、夙に『日本統治下の台湾－抵抗と弾圧－』（東京大学出版会、昭和 47 年 5 月 31 日刊）423 頁にて、台湾総督官房文書課『諭告訓達類聚』（昭和 19 年 3 月 29 日刊）を取り上げ、発行部局は異なるが、『沿革誌』別篇の続巻で、昭和 15～18 年分を収録したものであると紹介している。両書とも、平成 14（2002）年当時緑蔭書房で復刻を検討中であつたとお聞きした。当時の同書房刊行予告パンフレットによれば、近藤正己（1949～）編・解説『台湾総督諭告訓達類聚』（仮題、全 3 巻）の近刊予告があるが、現時点でも尚未刊か。

- ⑦『台湾警察遺芳録』（台湾総督府警務局編、昭和 15 年 4 月 1 日刊。以下『遺芳録』。）

これも、『沿革誌』の「外篇」という性格を有する（『鷺巣敦哉著作集』（以下『著作集』）V 367 頁）とのこと故、『著作集』別巻 397 頁以下に、その一部を収録した（同 457 頁参照。）。

なお、『沿革誌』の当初構想は、これより大きなものであつた。例えば、『沿革誌』Ⅰ「凡例」は、その全体構想を示している。以下に、当初予定と実際に刊行されたものとを対比すると、次のとおりである。括弧内が刊行分である。

- ① 第一編警察機関の構成（『沿革誌』Ⅰ）
- ② 第二編本島授受後の治安状況特に治匪始末並警察上の重要事件誌（『沿革誌』Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）
- ③ 第三編警務事蹟〈マ〉編（『沿革誌』Ⅴ）
- ④ 第四編警察経理事蹟編（未刊）

⑤ 第五編保安警察事蹟編（未刊）

⑥ 第六編衛生行政（特に防疫）事蹟編（未刊）

上記に加えて、前述のように、『沿革誌』別篇が入るが、これは、昭和 15（1940）年に当時の督府警務局警務課長小沢太郎氏（1906～1996、田中義一氏（1864～1929）女婿、戦後山口県知事、参議院議員）の意見で急拠編纂されたものとの由である（『台湾警察時報』第 298 号 34 頁以下、『著作集』V 473 頁以下）。加えて、小沢氏は、その後、昭和 19（1944）年官房文書課長の時に、その続編である前掲台湾総督官房文書課『諭告訓達類聚』（昭和 19 年 3 月 29 日刊）を刊行されている。この他、前掲『遺芳録』がある。

2 鷺巣敦哉氏の個人著作

鷺巣敦哉氏は、昭和 7（1932）年 1 月に台湾総督府警察官及司獄官練習所（以下「練習所」。）教官を最後に退官後、はじめ台湾警察協会、次いで、督府警務局嘱託となって、上記『台湾総督府警察沿革誌』を編纂するとともに、個人的にも著書を 8、9 冊程（残念ながら未確認のものがある。）刊行した。これらは、以下のとおりである。うち、『鷺巣敦哉著作集』（緑蔭書房、I～V：平成 12 年 12 月 10 日刊、別巻：平成 14 年 1 月 31 日刊。前述の如く以下『著作集』。）に収録のものには※印、『鷺巣敦哉とその時代（続々輯）—日本統治下台湾警察史雑纂 第六輯—』（自己出版、平成 18 年 1 月 1 日刊）に収録のもの（「〔特別収録〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集（第二輯）」）には※※印を付した。

（平成 26 年 9 月 7 日追加）平成 26（2014）年夏に『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）を刊行したが、同書に収録のものには※※※印を付した。

（平成 26 年 11 月 27 日追加）その後平成 26 年 11 月 21 日に至り、識者より①『警察生活の打明け物語』（自己出版、昭和 9 年 2 月 15 日初版刊、同年 4 月 25 日第 2 版刊）、⑤『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』（法院通訳 元練習所教官東方孝義（1889～1957）との共著、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊）については、現在では台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」（日文舊籍）で閲覧できるとの御示教を頂戴した。厚く御礼申し上げますとともに、無知、不手際を恥じる次第である。（平成 26 年 11 月 27 日追加）

〈[http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=sp.asp&spurl=xdcn/query for front/search/search_ad.jsp?dtd_id=000075&ctNode=344](http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=sp.asp&spurl=xdcn/query%20for%20front/search/search_ad.jsp?dtd_id=000075&ctNode=344)〉

〈http://das.ntl.gov.tw/sp.asp?xdurl=BrowseTopic/gipControler.asp&uid=topic_result_detail&cur_do_index=1&xml_id=0001803062&ctNode=213&dtdname=+%3A+%E6%97%A5%E6%96%87%E8%88%8A%E7%B1%8D〉

① 『警察生活の打明け物語』（自己出版、昭和 9 年 2 月 15 日初版刊、同年 4 月 25 日第 2 版刊。巻頭に当時の督府警務局長石垣庫治氏（1880～1942）の「序文」あり。なお、下記⑤の「巻末広告」によれば、「第 2 版には練習所に於ける、甲、特、乙科生の卒業試験問題約 200 頁を附録としてある。」¹由）（※ I：初版を収録）

¹ 下記②中の改訂版（昭和 14 年 9 月 6 日刊）「巻末広告」にも同文のものあり。初版は未見。（平成 23

(平成 26 年 11 月 27 日追加) 上記台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」(日文舊籍) 参照。

② 『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』²(自己出版、昭和 9 年 7 月 31 日初版刊、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介氏(1899～1980)の「序文」あり。)(平成 23 年 9 月 4 日一部修正)(⇒※※※補遺:改訂版(一部分のみ)を収録)。平成 26 年 9 月 7 日追加)

③ 『警察試験叢書第二編・甲乙種巡查採用試験の実際と受験の要訣 附 試験問題及解答集』(自己出版、昭和 10 年 2 月 15 日刊、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介氏(1899～1980)の「序文」あり。)(※別巻(一部分のみ。))

④ 『警察試験叢書第三編・警察算術問題解法の秘訣』(台北一中教諭四宮勤一氏(1907～1992)³との共著、自己出版、昭和 10 年 2 月 15 日刊)(※別巻(一部分のみ。))

年 9 月 4 日追加)

² 同書については、本稿改訂稿(平成 21 年 1 月 17 日作成)までは、「② 『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き』(自己出版、昭和 9 年〇月〇日刊。未発見。)(紹介:『台湾協会報』第 600 号(平成 16 年 9 月 15 日刊)参照。※※収録の⑤「巻末広告」に、本②の概要紹介あり。)」と記載していた。同書は、『鷺巣敦哉著作集』編纂時(平成 12～14 年)より長年にわたって国内及び台湾で探書していたものであるが、接することができずにいた。しかるに、今般、幸いにも、中央警察大学教授梁添盛博士及び台湾警察専科学校副教授劉惠璇博士の格別の御厚情により、漸く知ることができた。急ぎ誌して、両博士に深甚の謝意を表する次第である。(平成 23 年 9 月 4 日追加)

なお、本 HP 別稿「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』(昭和 19 年 1 月刊)一瞥 一最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希観書二題 一日本統治下台湾警察史の一齣一」(HP 初出:平成 23(2011)年 10 月 29 日(土)初稿作成)参照。(平成 23 年 11 月 23 日追加)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>〉

³ 「四宮勤一」氏については、本稿再訂稿(平成 23 年 9 月 4 日作成)の段階まで長く調査不十分のままであったが、最近(平成 23 年 11 月 9 日)さる識者の御示教を得たことを契機に、改めて調べてみたところ、下記のことと判明した。同氏の御指導に深甚の謝意を表するものである。

・2010(平成 22)年 2 月 25 日に、台湾で HP「台湾総督府府(官)報資料庫」が公開されたことから、督府関係の様々なことが簡単に判明するようになった。

〈<http://tatsu-news.com/front/bin/ptdetail.phtml?Part=tp203>〉〈<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>〉

・「四宮勤一」氏の場合、「四宮勤一」では検出できず、「四ノ宮勤一」で辞令その他が検出できる。このことから、「四宮勤一」氏は正しくは「四ノ宮勤一」氏であることがわかる。

・これを踏まえて、「四ノ宮勤一」氏でネット検索すると、二、三のサイトで、同氏名で『此の道一筋』(自己出版、昭和 44 年 9 月 30 日刊)なる著作が存在することが判明する。

・試みに上記『此の道一筋』をすぐ購入して読むに、口絵には「教育一筋の道に生涯を賭ける方々に本書を捧げる。四ノ宮勤一」記載入りの著者のお写真が掲載されており、同書の内容のほとんどは、戦後大分県高等学校教育界、同県教育委員会で活躍された時代のことのものであるが、一部に台湾在職時のことの記載もあり、同氏がまさしく鷺巣氏の共著者である「台北一中教諭四宮勤一氏」その人であることが確認できる。

・上記『此の道一筋』中で、台湾在職時及び離台後内地復員以前のことの記載頁は、次のとおりである。(119、120、123、124、126、184、185、190～192、194～201 頁)

・このうち、194～201 頁は「第 7 章 この道一筋」中の「4 この道一筋」であり、これで、同氏の御経歴が判明するが、特に 199～201 頁には「履歴」が掲載されている。これから関係部分を抽出すると、「明治 40(1907)年 12 月静岡県生、昭和 4(1929)年 3 月広島高等師範学校理科一部卒業、同年 4 月福島師範学校教諭、昭和 5(1930)年 4 月台北州立台北第一中学校教諭、昭和 13(1938)年 4 月任高等官七等[奏任]、花蓮港庁立花蓮港高等女学校教諭、昭和 18(1943)年 6 月臨時召集、終戦時は在チモール

⑤ 『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』（法院通訳 元練習所教官東方孝義氏（1889～1957）との共著、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊）（紹介：『台湾協会報』第 600 号（平成 16 年 9 月 15 日刊）参照。※※（一部分のみ））（⇒※※※補遺：（一部分のみ。）。平成 26 年 9 月 7 日追加）

（平成 26 年 11 月 27 日追加）上記台湾・国立公共資訊図書館「数位典藏服務網」（日文舊籍）参照。

⑥ 『警察試験叢書第五編 問題を基本とした法制及び経済教科書』（上記⑤「巻末広告」に、「菊版 1500（頁）位の予定」と記載されているが、もとより未見のものであり、実際刊行されたか否かも不明である。なお、下記⑧『台湾保甲皇民化読本』第三版（昭和 16 年 11 月 20 日刊）の「巻末広告」で、当時『台湾行政法講話 試験問題と其解答』（未発見）なる書籍が刊行されていることがわかるが、これと、本⑥とが如何なる関係にあるかについても、不明である⁴。）（紹介：『台湾協会報』第 600 号（平成 16 年 9 月 15 日刊）参照。）

⑦ 『台湾警察四十年史話』（自己出版、昭和 13 年 4 月 28 日初版刊、同年 11 月 15 日再版刊）（※Ⅱ：初版を収録。）

（参考）巻末に、「故人〔鷺巣氏御令室のこと〕生前の面かげ」、「台湾警察四十年史話附録本書執筆のゆはれ」、「子供等に伝ふる亡き母の面影げ」といった鷺巣敦哉氏研究上寔に貴重な文章、写真が収載されているが、何故か同じ初版本でもこれらが掲載されていないものがある。今後の課題である。なお、閲覧できた再版には、これらは存在する。）

島、昭和 21（1946）年 6 月復員、以後大分県在住」となる。

・これよりすると、鷺巣敦哉氏との共著である『警察試験叢書第三編・警察算術問題解法の秘訣』（自己出版、昭和 10 年 2 月 15 日刊）を執筆されたのは、20 歳代後半のお若き頃である。ちなみに、鷺巣氏は、同書冒頭の「はしがき二三」中「3 如何にして出来上りたるか」で、「（中略）これでは何時出来上るかも判らぬので、適当な共助者を物色して、台北一中の新進の数学教諭四宮勤一〔マ〕先生の快諾を得たのであつた。先生に内情を打明けて、昨年〔昭和 9（1934）年〕の暑中休暇を丸きり潰して助力して頂き、そして出来上つたのが本書である。（中略）共著とは云ふもの、大部分は四宮先生の労力に帰すべきものである。（下略）」（はしがき 3～4 頁、『鷺巣敦哉著作集』別巻 188～189 頁）と述べている。四ノ宮勤一氏に敬意を表する次第である。（平成 23 年 11 月 23 日追加）

・その後、さる識者より四ノ宮氏が平成 4（1992）年 1 月 2 日に長逝されたことをお聞きした。享年 84。謹んで御冥福をお祈りいたすものである。（平成 23 年 12 月 18 日追加）

⁴ ②記載の『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』（自己出版、昭和 9 年 7 月 31 日初版刊、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊）「巻末広告」では、「＝近刊予告＝ 台湾行政法講話（菊版三四百頁）」が掲載され、併せ、紹介文中に、「計画中の問題を基本とした法制の参考書が尨大で容易に完成しないので先づ行政法だけを分けて印刷するのであります。」とある。これ及び⑧『台湾保甲皇民化読本』第三版（昭和 16 年 11 月 20 日刊）の「巻末広告」からすると、その後、⑥中の『警察試験叢書第五編 問題を基本とした法制及び経済教科書』はやはり刊行されず、『台湾行政法講話 試験問題と其解答』が刊行されていた可能性があるが、なお未確認であり、今後の課題である。（平成 23 年 9 月 4 日追加）

この他、上記②『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』（自己出版、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊）中 110 頁記載の『警察試験叢書第五編・警察作文講座及文範』が刊行されているようであるが未見であり、今後要検討である。（平成 23 年 11 月 23 日追加）

⑧『台湾保甲皇民化読本』（自己出版、昭和16年6月20日初版刊。台湾警察協会、昭和16年8月31日訂正増補再版刊。同、同年11月20日第三版刊）（※Ⅲ：第三版を収録。この他、※別巻に「初版はしがき」、「各版比較表」等を収録。）

（参考）龍溪書舎平成17（2005）年5月（日の記載はなし。）刊行分の『20世紀日本のアジア関係重要研究資料』（サブタイトル：単行図書資料 旧満州・中国関係資料/台湾関係資料）9冊（セット、ISBN: 4844754807、税込価格:207,900円）の1冊（第78巻）として、『台湾保甲皇民化読本』（第三版）が復刻されている。

⑨『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（遺著、台湾警察協会、昭和18年9月20日初版刊）（※Ⅳ（初版のみか。）。驚巢氏は昭和17年3月29日逝去。）

（参考）上記『台湾保甲皇民化読本』第三版（昭和16年11月20日刊）「巻末広告」で、当時既に『爐辺夜話 台湾統治回顧談』（定価1円60銭、四六版約400頁）なる書籍がおそらく自己出版で出ていることが判明するが、これと本⑨との関係は不明である。このあたり、詳しくは、中島利郎教授（1947～）御執筆の『著作集』Ⅳ所収「Ⅳ『台湾統治回顧談』解説」を参照。

⑩ その他：調査中であるが、特に上記⑥の探究が喫緊の課題である⁵。

3 『驚巢敦哉著作集』の収録内容

『驚巢敦哉著作集』（中島利郎・吉原丈司共編（補遺のみ吉原丈司編）、緑蔭書房、Ⅰ～Ⅴ：平成12（2000）年12月10日刊、別巻：平成14（2002）年1月31日刊、補遺：平成26（2014）年7月31日刊）は、次のとおりである。（平成26年9月7日一部補正）

① Ⅰ：『警察生活の打明け物語』（自己出版、昭和9年2月15日初版刊、同年4月25日第2版刊）（※Ⅰ：初版収録）

② Ⅱ：『台湾警察四十年史話』（自己出版、昭和13年4月28日初版刊、同年11月15日再版刊）（※Ⅱ：初版収録）

③Ⅲ：『台湾保甲皇民化読本』（自己出版、昭和16年6月20日初版刊。台湾警察協会、昭和16年8月31日訂正増補再版刊。同、同年11月20日第三版刊）（※Ⅲ：第三版収録）

④ Ⅳ：『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（台湾警察協会、昭和18年9月20日刊）（※Ⅳ：（初版のみか。））

⑤Ⅴ：『雑誌所収著作』（『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』、『台湾地方行政』、『台湾時報』各所収論稿、「索引」等。）

⑥別巻：『警察試験叢書・雑誌所収著作補遺・索引』（『警察試験叢書第二編（自己出版、昭和10年2月15日刊）（一部のみ。）、『警察試験叢書第三編』（自己出版、昭和10年2月15日刊）（一部のみ。）、『台湾警察遺芳録』（台湾総督府警務局編、昭和15年4月1日

⁵ 本稿改訂稿（平成21年1月17日作成）までは、「調査中であるが、特に上記②の探究が喫緊の課題である。」と記載していたが、本稿再訂稿（平成23年9月4日作成）時点で、上記②については解決したので、上記⑥及び註4記載の『警察試験叢書第五編・警察作文講座及文範』の探究が最重要課題となった。（平成23年9月4日追加、平成23年11月23日一部補正）

刊) (一部のみの。)、『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』、『台湾地方行政』、『台湾時報』、『理蕃の友』各所収論稿、縁故者「回想記」、各種「索引」等。)

(本別巻刊行に当たっては、財交流協会より、平成 13 (2001) 年度出版助成 (下記サイト参照) を賜った。改めて誌し、深甚の謝意を表するものである。)

〈http://www.koryu.or.jp/center/ez3_contents.nsf/12/5B1A7800C0854A174925744B002161E2?OpenDocument〉

⑦補遺: 『警察試験叢書 (続)・雑誌所収著作補遺 (続)・索引』(『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』〈自己出版、昭和 9 年 7 月 31 日初版刊〈未収録〉、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊 (一部分のみ)、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介氏 (1899~1980) の「序文」あり。)、『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題集及解答集』(法院通訳 元練習所教官東方孝義氏 (1889~1957) との共著、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊) (一部分のみ)、『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』各所収論稿、参考資料、附録、各種「索引」等。)(平成 26 年 9 月 7 日追加)

(参考)

⑧『鷺巣敦哉著作集』補遺続集 (第一輯) (『鷺巣敦哉とその時代—日本統治下台湾警察史雑纂第四輯一』〈自己出版、平成 15 年 8 月 1 日刊〉) (「[特別収録]: 『鷺巣敦哉著作集』補遺続集 (第一輯)」: 『台湾警察協会雑誌』、『台湾警察時報』各所収残存稿を収録。)

⑥『鷺巣敦哉著作集』補遺続集 (第二輯) (『鷺巣敦哉とその時代 (続々輯)—日本統治下台湾警察史雑纂 第六輯一』(自己出版、平成 18 年 1 月 1 日刊) (「[特別収録]: 『鷺巣敦哉著作集』補遺続集 (第二輯)」: 『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題集及解答集』(一部分のみ。)等を収録。)

(参考)

*1 台湾 HP 資料に見たる鷺巣敦哉氏 (平成 27 年 8 月 3 日追加)

・平成 27 (2015) 年 7 月台湾で下記の文献が公刊された。取り敢えず紹介だけしておくこととする。

國立臺灣圖書館 〈<http://www.ntl.edu.tw/mp.asp?mp=5>〉

⇒《臺灣學通訊》第 88 期 / 警務 (2015.7.14)

〈<http://www.ntl.edu.tw/ct.asp?xItem=56580&ctNode=457&mp=5>〉

⇒「臺灣警察界第一寫手 鷺巣敦哉」

文・圖片提供 / 鍾淑敏 (中央研究院臺灣史研究所副研究員兼副所長)

〈<http://www.ntl.edu.tw/public/Attachment/57141435512.pdf>〉

鍾淑敏氏

〈http://www.ith.sinica.edu.tw/members_02_look.php?no=59〉

*2 蔡慧玉氏 (台湾 中央研究院台湾史研究所) 「鷺巣敦哉の植民地世界—《警察生活の打明け物語》を中心として—」(国際日本文化研究センター「植民地帝国日本における支配と地域社会」中の報告 (平成 21 (2009) 年 11 月 21 日)) (令和 4 (2022) 年 1 月 29 日追加)

〈<http://www.nichibun.ac.jp/research/team/tiiki.html>〉

〈<http://www.nichibun.ac.jp/research/faculty/staff3/tsai.html>〉

＊3 警察政策学会警察史研究部会編「鷺巣敦哉及び植木鬼仏両氏の個人写真について—『警察講習所第十三期卒業記念』アルバムから—」警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題—川路大警視研究を中心に—（第二輯）—武藤誠氏・加藤晶氏・福永英男氏・戸高公德氏追悼記念論集—【上冊】』（警察政策学会資料第114号、令和3（2021）年5月8日刊。同学会HP 〈<http://www.asss.jp/>〉にアップ済。）255～256頁（令和4（2022）年1月29日追加）

（了）

（平成19（2007）年8月15日初稿、平成21年1月17日改訂稿、平成23年9月4日再訂稿作成、平成23年11月23日二訂稿各作成、平成23年12月18日三訂稿、平成26年9月7日四訂稿、平成26年11月27日五訂稿、平成27（2015）年8月3日六訂稿、令和4（2022）年4月1日七訂稿、令和4（2022）年7月28日八訂稿各作成）